

はしからはしまで中川区

橋の魅力 発信マップ

中川
運河

発行：中川区役所地域力推進室 名古屋市中川区高畑一丁目223番地 TEL：052-363-4322
協力：NPO法人伊勢湾フォーラム

中川運河の歴史

中川運河は、名古屋港と旧国鉄笹島貨物駅との間の貨物輸送と、江戸時代の初期から名古屋の物流の大動脈となっていた堀川との相互通行を図るため、上流部は笈瀬川、下流部は中川と呼ばれていた曲がりくねった川幅の狭い浅い川を、真っ直ぐに広く深く掘って造られ、昭和7年に全線が開通しました。この運河には、水位を調節して船が通過できるように、中川口と松重に閘門（通船門）が造られました。また、運河の開削に伴う大量の土砂で沿岸を埋め立て、工場や倉庫を誘致したことにより、沿岸は名古屋市内西部の発展の拠点となりました。以後、中川運河は「東洋一の大運河」と称され、名古屋港と都心をつなぐ水運による一大輸送幹線としての役割を果たすとともに、市中心部の排水機能や広大な水面を有することから都心部のヒートアイランドを緩和する施設として市民生活を支えることになりました。しかし、昭和40年代に入ると、道路網の充実や名古屋港の接岸岸壁の整備、貨物のコンテナ輸送化など港湾貨物の輸送形態の変化により、水運による貨物輸送はトラック輸送へと転換し、昭和39年に一日約200隻を数えた船舶航行も、現在では、一日数隻程度となっています。一方、運河の穏やかで広大な水面を利用して、水上スポーツや芸術活動が行われるようになり、また、貴重な水辺景観を活用して飲食店が立地しているほか、クルーズ船が就航するなど、中川運河は新たな役割を果たしつつあります。

1 運河橋（うながはし）

昭和6年完成
現在改築更新中



中川運河の北端、大須通に架かる橋。港区南端に架かる橋は「中川橋」で、「中川運河」の名が南端と北端の橋の名になっています。

2 猿子橋（えんこはし）

昭和4年完成



この橋の四隅には、御影石で造られた子猿を背負った親猿の愛らしい親柱があります。この橋の名称は、中川運河の前身であった笈瀬川の河童伝説に因むと言われています。『その昔、笈瀬川には河童がおり、子ども達と仲良く遊んでいたとか、お尻の病の人が笈瀬川に尻を出していると河童がその病を治してくれた。』などの話が伝えられています。当時は、河童と猿は同じ生き物であると思われていたことから、笈瀬川の近くのこの地域は「猿子」とも呼ばれていたとも言われています。

5 八熊橋（やぐまはし）

昭和4年完成



八熊の地名は、五女子町の八剣社と二女子町の熊野神社がその由来と言われています。橋の東側の地名は富川町、西側は富船町で、中川運河が開通後、町の発展を祈念し運河の東側は○川町、西側は○船町とした町名が付けられました。この橋の親柱、橋脚は建設当初の雰囲気を残わせ、また橋の南には運河を利用して荷役が行われたことを思い起こさせる建物が残されています。

4 長良橋（ながらはし）

昭和4年完成



長良橋は、江戸時代に東海道(宮の宿と桑名宿をつなぐ海路・七里の渡し)のバイパスとして賑わった佐屋街道に架かる橋です。佐屋街道は、徳川家光が上洛する際に整備されたと言われており、明治維新の年には明治天皇が京都と東京を往復する際にも使われています。橋の親柱には籠を担いだ江戸時代の風景が描かれ、橋の東詰めには、『明治元年西京へ御還幸ノ際御小休アリス所ナリ』と刻まれた「明治天皇御駐蹕之所（ごちゅうひつどころ）」の碑が残されています。

6 篠原橋（しのはらはし）

昭和4年完成



名古屋市の主要な東西の通りである「八熊通」に架かる橋で、八熊通は「前田利家」の生誕地といわれている荒子を通することから、橋の西側の銘板には「利家とまつ」が描かれています。この橋を西へ行ったあおなみ線荒子駅前には、ここに描かれた「前田利家初陣の像」を見ることができます。また橋の南、運河西岸の市営清船荘の壁面には、松重閘門と舳船が描かれた巨大レリーフが飾られています。

7 野立橋（のだてはし）

昭和4年完成



昭和4年に完成したこの橋は、何度かの改築更新が行われていますが、建設当初のものと思われる親柱や橋脚、橋台が残されています。

9 蜷橋（じみはし）

昭和4年完成



中川運河の幹線が完成した前年の昭和4年に造られた橋で、完成目録の橋の説明書きには「蛤蜊橋」（はまぐりしじみはし）と書かれていました。橋の名が現在の蜷橋に変わった経緯は分かりませんが、その名の由来を考えると色々な想像ができます。

8 中野橋（なかのはし）

昭和54年完成



昭和54年に完成した比較的新しい橋です。この橋の南には、運河沿岸で操業を続けるいくつかの鉄工所の姿が見られます。

10 昭和橋（しょうわはし）

昭和4年完成



国道1号線に架かる橋で、この橋の南東岸には中川運河が活躍していた頃を偲ばせる二連のカマボコ型倉庫や運河に突き出したクレーンが残る工場などがあります。この橋から南側を望む景色は真っ直ぐに延びる中川運河を感じることができ、天気の良い日は名古屋港シーランドの大観覧車が運河の先に見えます。



かつては熱田区まで延びていた中川運河と直交する南郊運河。それを埋め立て、昭和57年整備されたのが南郊公園です。この南郊公園と南郊運河が中川区の南端になります。南郊運河南岸には「南方貨物線」の遺構が残っていますが、東海道本線のバイパスとして建設が行われ、9割以上が完成していましたが、その後の社会情勢の変化により工事が凍結され、一回も列車が走ることがなかった幻の貨物線です。中川運河にも橋が架かっていましたが、平成18年に撤去されました。

3 小栗橋（おぐりはし）

昭和4年完成



鎌倉時代、京と鎌倉を結ぶ鎌倉街道が通っていたと伝えられており、鎌倉街道は小栗街道とも呼ばれていたことから、この橋は小栗橋と名付けられたと言われています。この橋の完成は昭和4年で、南側の欄干は当時の面影を残す鉄製の幾何学模様の装飾が施されています。この辺りは、小栗康平監督作の映画「泥の河」の撮影場所としても知られています。この橋の西詰には、ほぼ笑みをたたえた、まん丸の優しいお顔の地蔵が安置されている運河地蔵堂があります。この辺りは水死者が多く、その霊を慰めるために地元の人たちの浄財により昭和10年この地蔵堂が建立されました。橋の北東側「露橋水処理センター」は「広見憩いの杜」を整備し、平成31年4月からプロムナードを歩いて中川運河を感じることができるようになりました。また、橋の南西側運河沿いに並ぶ「岡谷銅機」倉庫群が、昭和初期の姿に再建され、この橋は注目の写真スポットとなっています。